

第3回米沢市総合計画審議会 会議録

- 1 日 時 平成26年9月24日(水) 15:00～17:20
- 2 場 所 山形大学工学部米沢街中サテライトキャンパスセミナールーム
- 3 出席委員

尾形健明会長、安部美和子委員、泉多恵子委員、遠藤秀平委員、奥村あい子委員、小野浩幸委員、小野寺忠司委員、佐藤大喜委員、柴田正孝委員、島津眞一委員、白井裕久委員、白石祥和委員、鈴木清治委員、清野雅好委員、中嶋朱実委員、林宗太郎委員、我妻仁委員 以上17名

(大和田浩子委員、佐藤晃代委員は欠席)

(黒田三佳委員は10月1日より市教育委員就任のため審議会委員を辞職)

事務局

副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、会計管理者、市病事務局長

(健康福祉部長、産業部長、建設部長、水道部長、教育管理部長、教育指導部長、議会事務局長は欠席)

総合政策課 課長、課長補佐、総合計画策定室長、企画調整主査、担当

4 会議録

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

会 長 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。この会も第3回を迎えるということで、いよいよ佳境に入ってきているのではないかなと思っていますところ。この間、まちづくりフォーラムや市民あるいは高校生アンケートなど、いろいろとまちづくりに関しての熱い気持ちを皆さん寄せてきてくださっていますので、我々審議会としては、そういった意見も十分に参考にしながら審議会としてのまとめをしていくと言いますか、50年先のことを考えることになっていますが、とにかく10年先を目指して、みなさんのアイデアを出していただき、取りまとめをしていきたいと思えます。とにかく、月に一度の集まりになりまして、次回が10月にあるということですので、どうぞ皆さんこの会を優先していただいて取り組んでいただければ大変ありがたいと思えます。では、本日また5時を目処にしているところですので、よろしくお願ひします。簡単ですが、あいさつに代えさせていただきます。

(3) 議事

事務局 審議会条例第5条第2項の規定により、会長が議長となることとされております。尾形会長に議長をお願いしたいと存じますのでよろしくお願ひいたします。

会 長 それでは、議事に入ります。本日の会議につきましては、午後5時くらいまでには終了したいと考えておりますので、議事の運営につきまして委員の皆様のお願ひいたします。特に今日も前回同様各委員からお一人ずつ意見をいただくという場面が出てまいりますので、時計を見ながら発言をしていただければ大変ありがたいと思っております。はじめに(1)の新総合計画策定のためのアンケート結果についてについて、事務局から説明願ひします。

事務局 資料「新総合計画策定のためのアンケート結果概要報告書」と「新総合計画策定のためのアンケート結果報告書」に基づき説明

- 委員の皆様になるべく早く結果をお知らせする趣旨から、未定稿の段階でお示ししております。
- 集計結果の数値については、確定したものをお示ししておりますが、文言の標記や体裁等について今後変更があることを御了承願います。
- アンケートの概要報告書については、アンケート結果の概要と、その総括を記載しているものであり、結果報告書はアンケート結果の詳細を記載しているものとなります。
- 結果報告書の2ページには、報告書の読み方として、調査結果を表記するにあたっての考え方をお示しております。
- 記載していますとおり、今回の調査結果の数値は、原則として回答者の構成比（百分率）で示しております。構成比は、小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記していることから、各比率の合計が100%とならない場合があります。また、複数回答の設問では、各比率の合計が100%を超える場合がありますことを御理解願います。
- 本日は、概要報告書に沿ってアンケート結果の概要について説明をさせていただきます。
- 1ページには、調査概要及び回答者の属性について記載をさせていただいているところでもあります。
- (2)の調査概要のとおり、市民アンケートにつきましては市内在住の18歳以上の4,000名を対象とし、中学生アンケートにつきましては、市内在住の中学3年生全員829名を対象とし、高校生アンケートにつきましては、市内在住の16歳～18歳の高校生世代500名を対象としまして、本年6月20日から7月11日の期間で実施しております。
- アンケートの配布については各世代及び男女比がほぼ同数となるよう無作為抽出で行っております。
- アンケートの回収率については、表に記載していますとおり、市民アンケートが41.5%、中学生アンケートが84.9%、高校生アンケートが34.2%となっております。
- (3)の回答者の属性については、市民アンケートにつきましては、男性が41.0%、女性が49.0%となっており、年齢構成では、50代以上で6割を占めているところです。
- 3ページには、市民アンケートにおける市の将来像についての集計結果を記載しております。市の将来像につきましては、アンケートにおいて第1位から第3位までの順位を付けて選んでいただいたところです。表の一番左端の第1位の欄は、市民の方が将来像の第1位として選択しました項目を上から多い順に記載しているところであり、第2位の欄は市の将来像として市民の方が2番目に望むものとして選択しました項目を上から多い順に記載しているところです。以下第3位の欄も同様に記載しているところです。

- 市民の方が将来像の第1位として選択しました項目として一番多かったものが「健康づくりや子ども・お年寄りなどを大切にする保健・福祉のまち」であり、“保健・福祉”に重点を置いたまちづくりを望む意向が多い結果となっているところであり、そのほか、「商店街やレジャー施設が整備された賑わいと活気のあるまち」、「交通事故や災害、犯罪のない安全なまち」を望む意向が上位にきているところです。
- 4ページには、「市が直面する課題を解決・改善する取り組みについて」ということで、人口定住に向けた取り組みについての集計結果を記載しているところです。
- 出生率の向上に向けた取り組みについては、「外来診療費や任意の予防接種費用等、子育てにかかる医療費負担の軽減」と「子育てにかかる悩みや不安を解消するための相談・支援事業」がほぼ同率で今後重視すべき取組として、上位に挙げられているところです。
- 健康寿命を延ばす取り組みについては、「仲間づくり、健康づくり、生きがいづくり等の活動に対する支援」が最も多く、そのほか、「一人暮らしの高齢者への見守り」、「高齢者の就業機会の開拓、技能の活用推進」などが続いているところです。
- 5ページには、転出者の減少・転入者の増加に向けた取り組みについて記載しているところです。
- 転出者の減少に向けた取り組みについては「若者の起業に対して支援することによる、新しい雇用の場の創出」が最も多く、次に「今後成長が期待できる有機EL等の産業分野への市内企業の進出促進」が続いているところです。
- 転入者の増加に向けた取り組みについて、「若者移住促進事業」が最も多く、そのほか、「転入やUターン促進の情報提供」、「移住を目的とした交流イベントの開催、PR活動」が続いているところです。
- 6ページには、重点的に取り組むべきものとして、各分野での上位3項目に挙げられている取り組みを記載しているところです。
- 都市基盤・機能の整備については、中心市街地の活性化が最も多くなっているほか、「公共交通機関の充実」といった利便性やアクセスの向上を望む意向が上位にみられるところです。
- 生活環境の整備については、冬期の生活環境に対する充実を望む意向が特筆して強いことがうかがえるところです。
- 保健、医療、福祉、安全の充実については、回答者の構成や少子高齢化を背景とした現況から、全般的には「高齢者福祉の充実」を望む意向が強く表れているところですが、結果報告書の24ページを御確認いただくと、20～30代では「児童福祉の充実」を望む意向が最上位に挙げられているところです。このことから保健、福祉分野では、世代に応じた取り組みが望まれていることがうかがえるところです。
- 概要報告書の6ページに戻りまして、産業、経済の振興では、「就労への支援、就労環境の向上支援」が最上位に挙げられていることから、雇用の確保は重点的

な課題であることがうかがえます。

- 教育、文化の振興では、「学校教育の充実と教育施設の整備」が最上位に挙げられているところです。
- 市民参画、交流の推進については、「市民が参加できるまちづくりの推進」、「地区コミュニティ施設の充実や地域活動の促進」が上位に挙げられているところですが、ここでも結果報告書の8ページを御確認いただくと、地域活動やボランティアへ「現在、参加している」割合は16.9%、「参加していない、参加したことがない」割合が46.5%を占めることから、市民は市民参画への必要性は認識しているものの、なかなか参加につながる機会が少ないことがうかがえるところです。
- 概要報告書の7ページからは、市民・中高生の意向比較としまして、将来の居住意向と将来像についての意向について比較したものを記載しているところです。
- 市民と中高生の将来の居住意向を比較しますと、「ずっと住み続けたい」、「将来も住み続けたい」といった居住意向の高い回答には、市民が49.9%に対して、中学生が14.6%、高校生が17.5%といったように、中高生においては、市外へ転出することが前提となっていることがうかがえます。
- 一方で、中高生の「一度は市を出たいが、その後、いずれは帰ってきて暮らしたい」との意向は3～4割を占めることから、こうした若い世代が、再び地元で生活するための取組みが望まれていることがうかがえるところです。
- 8ページには中高生の将来像についての意向を記載しているところです。
- 望まれる将来像は、中高生とも第1位に「商店街やレジャー施設が整備された賑わいと活気のあるまち」といったように、まちの“賑わいや活気”が最上位として挙げられているところですが、市民アンケートと同様に「健康づくりや子ども・お年寄りなどを大切にする保健・福祉のまち」、「交通事故や災害、犯罪のない安全なまち」も上位に挙げられているところです。
- また、「商店街やレジャー施設が整備された賑わいと活気のあるまち」は、市民アンケートでも上位に挙げられていることから、これら3つの視点は全ての市民が将来に向けて望んでいることがうかがえる結果となったところです。
- 9ページ以降は今御説明しました内容と重複しますので説明を省略させていただきます。

会 長 ありがとうございました。皆様から御意見・御質問はございますか。本日の2番目の審議事項を考えた時にも、アンケート結果は参考になるかと思しますので、何か不明な点、あるいは新しい発見等がありましたら御発言をお願いします。

委 員 大変貴重なアンケート結果だったとは思いますが、ベンチマークと言いますか、今後米沢市が参考にしたい、地方中核都市や他の自治体で同様のアンケート調査をしている例はご存知ですか。そこと比較した場合、米沢のアンケート調査の特色はどういうところにあるのか。というのは先程言われた通り、全ての中核都市が実は一度は若者が外に出て戻るといった構図なのか、例えば7大都市といわれるような、いわゆる極点社会における残存する自治体というのは、実は20代30

代が残りたいたいという町なのかと思ひまして。つまり20代30代がいなくなるという規模が多くて、でも戻りたいというのは3割いるから3割が戻ってくるようにしようということがいいのか、20代30代、むしろ中学生・高校生が残りたいたいと思えないまちを作ってしまったてはいけないということなのか、解釈が全く違ってしまふのではないかなと思つたので、いわゆるベンチマーキングをどう議論すべきということについてもし情報がありましたらお願いしたいと思ひます。

事務局 ベンチマークというのは実際現実的には難しいところだと思つております。今回アンケートを設問するに際しましては、他の自治体の状況を調査してこのようなアンケートのどれが正しいアンケートの内容なのか、ベストなのかというのはなかなか難しかったのですが、他の自治体のアンケートについてはほとんど公表しておりますので、まずは調べさせていただきたいと思ひます。大きな自治体と比較するのではなく、人口あるいは地方都市など、どの程度マッチするかどうかなんですが、調べて今後その数字をみてどういうふうにもっていけるのかを含めて検討させていただきたいと思ひます。

会長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。次回の審議会まで御覧いただいて御発言いただければ大変ありがたいです。では(2)新総合計画の視点について事務局から説明をお願いします。

事務局 資料1「新総合計画(まちづくり)の視点について(まとめ)」に基づき説明

- 資料1を御覧願ひます。この資料の1ページと3ページは、先に新総合計画(まちづくり)の視点についてとしまして、委員の皆様から頂戴しました御意見と市民中高生アンケート結果について、事務局で論点整理をさせていただき、まとめさせていただいたものです。
- 1ページの表の一番上「目指す姿」の項目は「50年後に残すもの、50年後の姿」と「50年後に向けた、10~40年後の姿」の欄に分けさせていただいて、それぞれ委員の皆様から頂戴しました主な御意見・提案についての要旨を記載しているところです。
- 「50年後に残すもの、50年後の姿」については、「経済が発展している」、「暮らしやすい都市を形成している」など全部で5つにまとめて挙げさせていただいているところであり、「50年後に向けた、10~40年後の姿」については、「経済基盤の計画的強化」、「都市整備の計画的推進」など、こちらも全部で5つにまとめて、挙げさせていただいているところです。
- 次に、「目指す姿」の項目の下にあります「市政の最重要の方向性」のところは、「人口定住に結びつく持続可能な経済活動の実現」、「すべての市民の生活の質の向上」、「地域特性の継承・創造」、「その他の視点」の欄に分けさせていただいて、それぞれ頂戴しました主な御意見・御提案についての要旨を記載させていただいているところでもあります。
- 「人口定住に結びつく持続可能な経済活動の実現」については、「雇用、働き方の拡大」、「分野横断・地域間の連携強化」等3つにまとめて挙げさせていただいているところであり、「すべての市民の生活の質の向上」については、「経済力の強化」、「市民の意識の持ち方」等、5つに、「地域特性の継承・創造」

については、「人材の育成」、「地域資源の発掘」等4つにまとめさせていただいたところであり、「その他の視点」については「温故知新」を挙げさせていただいたところです。

- 以下、3ページの表の一番上の「核となる取り組み」及びその下の「市の独自性・米沢市だからできる、あるいは、やらなければならないこと」の項目についても、「産業振興」、「人財育成」、「都市整備」の欄に分けさせていただき、それぞれ委員の皆様から頂戴しました御意見・御提案について、論点整理をした上で、その要旨を記載させていただいているところです。
- また、市民・中高生アンケートの結果から、1ページには、世代ごとに望んでいる将来像の上位3項目と、中高生の方に自由意見として記載してもらった「私ならこういうまちにする」の主な御意見を記載しているところであり、3ページには人口定住に向けました各種施策で今後力を入れていくべき施策として上位に位置づけられたものを記載しているところです。
- それぞれのページの一番下にある、まちづくりフォーラムの欄については、最終的にはフォーラムの提言内容を記載する予定としておりますが、今回は参考資料としてお出ししている米沢まちづくりフォーラム第1回意見一覧をご参照願います。
- 今後予定しております、有識者インタビュー等についても結果がまとまり次第この資料に追加して記載していく予定としております。
- なお、委員の皆様から頂戴しました全ての御意見については、一覧にまとめて資料2としてお出しさせていただいているところでありますので御確認をお願いします。こちらの資料につきましては、審議を円滑に進めるために、各御意見の後ろに委員名を記載しているところでありますが、後日ホームページ等でこの資料を公開する際は、委員名を削除して公開させていただきます。
- 本日、委員の皆様には、資料1の審議項目1について、事務局でまとめた内容について、要旨の取り方や整理の仕方について過不足がないかを御確認いただいた後、2ページに記載しております将来を見据えたまちづくりの目的と、それを受けての、10年後に向けた「将来都市像（もしくは、将来に向けたキーワード）」について、1ページの内容と2ページに事務局案としてお示ししている文言のイメージを御参考にしながら御審議をいただき、審議会としての大まかな方向性を出していただきたいと考えているところです。
- なお、3ページ目以降の審議項目2については次回での御審議を予定しておりますが、審議項目1の御審議が早めに終了した場合は、続けて御審議をお願いしたいと思います。

会 長 ありがとうございました。資料1というところに、皆さんから出して頂いた御意見を事務局で取りまとめ、箇条書きにまとめてありますということです。そこで委員の皆さんに最初にやっていただきたいことは、この確認といいますか、委員の皆さんが出したものが反映されているかどうか、過不足という表現をされておりますが、そのチェックをお願いしたいということです。それが終わりますと、資料1の1ページを参考にしながら2ページの穴埋め問題が待っていまして、2

ページの「検討1 将来を見据えたまちづくりの目的」という審議会案を、例えば事務局案が示されていますけども、そのような形で5つくらいにまとめたいたいなど思っております。次はその目的を受けて10年後に向けた将来都市像の審議会案をここにまとめるということになります。審議の進め方ですが、最初1ページを御覧いただいて、皆さん方が提出された案とミスマッチが起こっていないかどうかを御確認いただくということになると思うのですが、それが終わり次第先程の穴埋めではないですが、2ページの「検討1」と「検討2」につきまして、これは一緒に発言していただけるとありがたいです。皆様方からお一人ずつ、前は3分で時間がなかったようなので、5分くらいでお願いしたいと思います。完成品でなくても結構です。皆さんから色々な御意見を頂いて、また事務局で取りまとめさせて頂くというやり方をとりたいと思います。ではまず1ページから委員の皆様のご意見が書いていないというのがありましたら御自由に御発言下さい。

委員 実はこの様式について提出させてもらったのですが、添付としてデータをつけさせてもらっておりましたので、このデータを皆さんと共有しながらどうみるべきか考えたいと思います。1部ずつとってもらえますでしょうか。審議内容によってはあまり拘らない方がいいのかもしれないのですが、意見が出にくい雰囲気だったのでまずお話しします。2枚目と3枚目を見ていただきたいと思います。2ページの表の「米沢市の主要指標動向予測」というのを見ていただきたい。大したものではないのですが、事務局よりいただいた大量の資料を隅々まで見たのですが、「50年後の姿をイメージして下さい」という割には10年後も25年後も50年後のデータもこの中には入っていないのです。そこで、ここにあります「国立人口問題研究所」「県民経済計算国勢調査」という元データに戻って調べてみました。データによっては24年先まで予測値として出ておりました。そういった予測値として出てないものについては、過去10年のデータが公表されていますので過去10年間のデータをさかのぼってトレンド分析しました。収束率が大体80%以上になる程度の代数計算をして、単純にトレンドでしかないのがどこまで正確かというのはあまり信用にならないのですが、一つの目安として10年後、25年後、50年後どういう数字になるかいうものを出してみたものです。ここで言いたいのは、今後25年で我々が思い描いている以上に大きな縮小の変化が生じるということが分かります。文言では米沢市で準備して頂いた資料のなかにも書いてはいるのですが、どこにもデータが出ていないので、データとしてみると人口も生産年齢人口も総生産額も経済成長率もすべて驚くような数字の減少です。人口の全国比というのも10年前は0.07%だったものが将来0.06%を切るということが分かりました。この表では、かなり希望的なデータを入れているのですが、経済成長もしくは一人当たりがどのくらい豊かな地域をつくっていけるかという視点でいろんな代数を入れたところ、労働生産性に関しては10年後には1.2倍稼ぐという付加価値を創出する能力を高め、50年後には約3倍に高めないと現在の規模の経済を維持することができないことが分かりました。逆に言えば、現在の米沢市で起きている経済規模を、減っていく人口のなかで維持していくためにはどれくらい付加価値というものを高めて次の

生産力や雇用力を維持すればいいのかという目安でいくと、10年後が1.2倍で出来そうかなという数字ですし、その努力を続けていくことで50年後に3倍にしていけば、将来の米沢市がお先真っ暗で小さくなるのだということではないことが分かりました。もちろんそれは決してたやすい数字ではないと思うのですが、比較的現実性のある数字で非常に重要なのは、そうした一人当たりの市民所得というベースで見たときに、過去10年は下がっています。けれども、今のよう数字が仮に可能だとすれば、25年後は350万円になり、50年後には倍の510万円になります。ここで言いたいのは2つありまして、1つは約10年前から全国的に大きな数字の変化が起きてきたという話を前回しましたが、より大きな変化というのが今後20年の間に大きく起こるということです。逆にいえば25年から50年のあいだは少し変化率が小さくなるということが、ここではあくまでデータとして出てきます。何を意味しているかということ、人口構造の変化がここ20年くらいに非常に大きく起こる。単純に減るということではなくて、労働力の基盤もしくは新しく生み出す基盤となる、例えば20代から40代、50代という年齢層の人が人口バランスのなかで非常に減っている、担い手となる人が減っていくという大きな変化が起きて、ある程度そのバランスが安定してくれば当然のことながら経済変化も比較的穏やかなものになってくるのではないかと解釈しています。それがなぜ起きているのか、色々な意見を言う方がいらっしやいます。非常に多いのは、戦後高度成長期に、次世代のものを生み育てる年代層が大量に首都圏に流出するという経済構造を50年繰り返したということです。ここ数百年の歴史のなかで戦後の高度成長期にそういう人口移動と産業構造モデルが日本の中で出来あがっている。今も人間の感覚のなかにはそういう意識がある。でもそれが今までもずっと起きてきたことではなくて、ほんの何十年の減少だという方がいます。そうだと私言い切れるほどの材料を持っていないのですが、これは実は今後20年の地域格差の変更を生み出す大きな要因の一つとなっているという議論があります。つまり住民の意思が仮にそうだからといって20代30代は一回市外へ出て、その代わりに40代50代になったら戻ってこられる社会にしましょうという選択肢がほんとにいいのかというのが一つあります。もう一つは、3枚目を見てください。50年後に今の倍以上市民が豊かになる社会を目指すときに、過去10年間どうだったかというものを調べてみたグラフです。企業所得というのは景気の波を受けるわけですが、10年前と比べると今120%くらいなのです。減ったのはリーマンショックがあったほんの2、3年でしかないのです。ところが、この10年間一貫して雇用者報酬は減っているのです。つまり単純に言えば労働分配率がこの10年間ずっと減っているのです。つまり経済規模が小さくても一人ひとりが豊かな社会ということが今後50年間描くべき米沢市の社会じゃないかと思ったときに、少なくとも過去10年は真逆に進行してきたということです。これは何が原因ということとは当然わかりません。ただ単純にデータからみる今の経済構造がそうだということです。その下のグラフ、さらに四半世紀遡って山形県の工業の状況と付加価値の状況を見ています。これを分析したものを実は今年6月に新聞に投稿させてもらったので、生のデー

タの方を参考までに右の方にのせておきました。ここで言いたいのは、今までは成長期にあってキャッチアップしたときには、付加価値つまり儲けを多少犠牲にしても規模を求めることで皆等しく成長できた時代だったのですけれど、ここ10年はそういうことがなくなっている。逆に言えば、付加価値つまり雇用力や開発力を失った地域は、トータルして棒グラフの一番上の出荷額つまり製造規模そのものもグローバル社会のなかでマイナスになっている。つまりここでルールチェンジが起きているということです。これは私の一つの解釈でしかありません。ですから、仮に人口が減って経済規模が同じでマクロで見ると変わっていないのだけれど、一人ひとりがとても豊かになる社会というものを目指したときに、過去10年はそれとは全く違う方向で今来ている。そのことを意識しないといけなのではないかということです。長くなりましたので、議論の皮切りということでお話ししました。

会 長 このデータは、御提示の際に割愛させていただいたのですけれども、非常に貴重なデータを頂いているわけですので、これも踏まえて議論をお願いしたいと思います。今のお話しに対して何かありましたらお願いします。

委 員 今のお話に関心します。まずこの資料の1ページのテーマですが、今の話で人口減少社会が間違いなく来る、かつ高齢化が今より進む、少子化が進むかつ生産年齢人口が減っていく、当然のことながら経済規模が縮小していき、年金生活者が増えていくわけですから一人当たりの市民所得も減っていきます。市民所得を維持しようとするならば一人当たりの付加価値を高めていかなければならない。そのときに今のような形での労働分配でうまくいくのかということです。付加価値を上げなければならぬと言ったときに、一番大きい10年の変化というのは、やはり産業構造が変わり、グローバル経済になり、リーマンショックを迎えて日本経済が低迷してきて、正社員と非正規社員の格差が生じている。非正規が大体3～4割、米沢も非正規のパートあるいは有期雇用含めて大体40%くらいだと思うのですけれども、その方と正規雇用の所得の格差が非常に大きいのです。少子化とも関連するわけですが、人口問題研究所なり国勢調査のデータをとると、まさしく非正規の方々の所得が正規と比べるとかなり低い。そういう方々の婚姻率が非常に低い。しかも生涯未婚率も高い。そうなるとうまくいってきているのは、色々な原因が言われていますけれど、この少子化の一番の原因は、女性も含めた結婚適齢期にある20代の方々が非正規の雇用を余儀なくされて所得が低いことから、子育てをしていこうという希望を持って結婚はしたいのだけれども実際結婚に踏み切れないあるいは結婚できない、そういう経済的なバックボーンがかなり影響しているのだらうと思います。減少率を食い止めるためには、あるいは出生率を2まで上げるのは厳しいので減少率を抑えていって、しかも若者が定住してあるいは戻ってこられるような社会にしていくにはやはり経済格差に手をつけないと、結婚をしていこうという希望もないと思います。夫婦の子どもを産む人数もだいたい2010年で2を全国で割ったはずですが、もう2人を産まない時代になった。それはなぜかといえば、やはり所得の問題あるいは教育費がかかる、これからの経済的に不安がある、そういったことでの抑制効果が少子

高齢化を生んでいるということを考えると、人口定住に結びつく持続可能な経済活動の実現にあたっての優先政策、新たな政策の中には、若者の雇用あるいは所得を、いかに地域全体で上げていくのかということをごひ私はテーマとして入れていただきたい。それが結局は少子化対策あるいは婚姻率を上げ未婚率を下げていく、若者が希望をもって結婚したり子育てにチャレンジしたりできるということです。

会 長 それでは、今お話しいただいたことを含めてでも構いませんので、資料1の2ページの審議会案というところを作っていくしたいと思いますので、各委員に発言をお願いしたいと思います。

委 員 今のお二人の話を聞いて非常に参考になりました。資料1の2枚目の事務局案に書いてあるように「人口定住に結びつく持続可能な経済活動」はまさにこのとおりだと思うのですが、日本創成会議のおかげで全国各市町村が人口減少社会にどう対応しているのか、難しいことをいうとメタメッセージというのですかね。いわゆるこれが今大事な問題なのだというところが全国共通しているように思えます。もうそれ一色です。安倍総理大臣が座長になっている「まち・ひと・しごと創成会議」、これもまさに2回目までの内容です。だけど、米沢市はどうするっていうのは一般解ではなく全部特殊解なのです。定住人口を増やすっていうのは一般解なのですが、どうして増やすっていうのはやはり米沢の特殊解を見つけしていくしかないと思います。では特殊解とは何なのか。この委員から出された資料は、社人研の下位数値を出していますよね。この25年後の人口65,000人というのは多分人口移動がない場合の数値です。しかも一番楽観的な指標です。創成会議で出たのは2040年には60,000人です。それをどうやって止めるか、まず定住人口を増やしていきましょうとなります。では定住人口を増やしていくためには、一つは中学生高校生のアンケートを見てもわかりますように、東京の銀座みたいなまちは作れないけどやはりある箇所にもちの中心市街地をいち早く形成していかないと、若い世代10代からは見離されていくだろうなと思います。あともう一つ、県もインバウンドとよく言っています。観光都市はインバウンドの取り合いをしています。山形県のインバウンドの先の半数は台湾だと言われています。台湾からの観光客は約半数、インバウンドの代名詞みたいなものです。では米沢の現状はどうかというと、ものすごくお寒い現状です。インバウンドで人口減少を補っていかうというのは、インバウンドで来る人は20万30万円の平均単価のお金を使いますので、定住人口、例えば100人と同じ経済効果だという理屈を使っています。だからインバウンドの目標値は、観光都市を掲げているところは出しています。だけど米沢はロケーションというか位置的に厳しく、実績的にも厳しいということをややはり意識していかなければならないと思います。それでは何かといいますと特徴を際立たせた存在感というのがリアルな50年後の姿であると思います。その特徴の一つが、今山形大学でやっている色々な研究シーズであり、50年後にはこれら研究シーズがおそらく花開くであろう時期になるかと思っています。具体的に言いますと、有機エレクトロニクス産業では現在色々製品化に取り組んでいらっしやいますが、認証機関がない

ことが製品化の一番の隘路になりつつありますけども、例えばそれを米沢に設けるということをこれから50年先に向けてやっていけば有機エレクトロニクスの認証は米沢だということになるのではないかと思います。ですから特化した魅力づくりの一つになるのではないかなと思います。また、具体的な策の一つとしては住宅ストックの問題。前回も言ったかもしれませんが、子育て世代に広い住宅を提供する際、やはり子育てが終わった世代は中心部に集まってきてもらって、集合住宅などもいいですが、交換をしていくことが必要です。だけど不動産価値が下落していますから思った通り交換できない。そこに何らかの行政や民間の知恵を入れて、ちゃんと子育て世代にいい住宅ストックを与えていくことがリアルな問題の一つとして必要かなと思います。日本創成会議の増田寛也さんも言っていますが、少子化を回避するのはやっぱり所得です。夫婦二人、30代前半で年収500万円ないと子どもを2人産まないという結論が出ているのです。だから市民所得を上げ、世帯所得を上げ、そのためにはパイを減らさない努力をしていくということなのではないかなと思います。50年後のあるべき姿はそういう米沢らしい材料で特化したまち、それに向けての10, 20, 30年後はそのためアプローチというようなことじゃないかなと考えます。

会 長 米沢ならではの特殊解を見つけられないといけないという御意見ですね。人口を増やすのに、例えば山形大学工学部の教養教育の学生約500名が山形市に1年生で行っているわけですから、教養教育も米沢でやるつもりで米沢に呼んでくるとすると毎年500人増えることになります。一貫教育を米沢で行うと、学生は二度引っ越さなくてもよくなり、そういうのも必要なんじゃないかなと思っています。いずれにしても、学園都市としての工学部の存在は大きな存在になりつつあるので、もっと学生を増やすような方向で米沢市民に対する学生数の割合をもっと増やすというやり方だったら面白いのかなと思っています。かつて米沢から山工大工学部が出て山形に引っ越そうかという話がありました。今から20何年前だったと思います。結局止めたわけなのですけれども、あのとき経済効果の数字がありました。学生が生活するためにお金を使い、教職員も給料を生活のために米沢で使用してわけですから、その当時55億円と言われていました。そういう意味で大企業ひとつ持ってくる企業誘致っていうのであれば、もっと工学部に学生を集めるような工夫をするようなやり方をするといいかなと思っています。人口増というのにかけて、所得を考えると、山形大学をもっと使ってほしいと思います。では次の委員をお願いします。

委 員 私は学校に勤めておまして、実はUターンです。最初の就職は県外でして、その後山形に戻って参りました。私の年代や下の年代は都会へ行ってから戻ってきたUターン組が結構いたのです。それはおそらく県教委で我々の層を埋めておかないと将来大変な目になるということで、気にしながら採用してくれたのではないかなと思っています。そして我々の世代が引き継いで、我々の4, 5つ下のあたりから先生が増えていきます。我々はその繋ぎのためという思いでした。私は県外にいきまして米沢に戻ってきたのですが、正直なところその違いに驚きました。でも住めば都で米沢もいいところがあったのだなというような気がしま

す。ただ県外の生活になれてしまうと、その生活が良くてという思いがあり米沢が良いと思うまでに何年かかかりました。私はアンケートにあるように中学生や高校生や市民の方々が米沢の良さ、米沢らしさを受け継がれるようなまちづくりが必要と考えています。米沢は豊かな自然とか人情味のある人達とか真面目だとか、また、歴史的な史跡や文化的なものが非常に多い。それから昔から人を育ててきたまち、大事にしてきたまち、そんなところがアンケートの良さとして描かれています。私もこういうような米沢らしさが引き継がれるのがまちづくりなのだろうなと思っています。今学校という枠組みのなかで考えた場合に、小学生、中学生、高校生に米沢にはこんないいところがあるのだよというところを、体験を通じて実感させていくことが必要なのだと思います。良さとしては、地域の中でも子どもたちを抱きかかえて何とかしていこうとしていまして、例えば地区運動会には中学生が参加してさまざまな応援をしてみたり手助けをしてみたり、あるいは学校によってはコミュニティセンターとタイアップして観光客のために上杉神社で史跡的な案内をしてみたり、あるいは地区のなかでリーダーを育てて中学生がリーダーで小学生たちを指導していくような、地域の核になっていくような試みも行われていますし、各地域の文化祭では中学生が吹奏楽の演奏含め小学校の作品展も出展などして地域に関わるような取り組みをしていると思います。高校にお伺いしたときに地域のために何かしたいのだという校長先生のお話でしたが、やはり高校でも地域との絡みを密にしていくというようなことを考えていらっしゃると思います。子どもたちに米沢の良さ米沢らしさを学び体感させて、県外に出ても、いずれは戻ってきてやはり米沢に住みたい、生活したいという子どもたちのアンケート結果が出ているので、将来戻れるような米沢になればと思います。やはり仕事がなければ他の県に行かざるを得ない、ここが大きな課題になっているのかなと感じているところです。

会 長 ありがとうございました。地域の継承・創造というところで、もっと中学生や高校生の参画をとということだと思えますが、確かに若い子どもたちが地域の行事に参加させてもらえるというのも一つですね。では、次の方お願いします。

委 員 私の言いたいことも皆さんと同意見です。新たにということでは特にございません。今回事務局案にしっかり、記載されている内容がごもっともだと思っています。大事なのは、この後の細目意向だと思いますので、大枠の目標として考えられる諸問題、考えなければいけないことについてはここに記載のままで他に私の意図するものはありません。そういった中で、10年後そして50年後というスパンについては、普通の日積み重ねが今の歴史でありまして、50年前も、当時諸問題について、色々な研究を重ねながら今があるわけで、こういった目標が早く具体的に掘り下げられて、政策探索をし、早めに政策を打って、それを検証しながら、さらにまた次の洗い出しと繰り返し行わなければならないと思っています。この点については、他の方と同意見として私の意見とします。

会 長 ありがとうございました。では次の方お願いします。

委 員 私もみんなと同じ意見です。アンケートを説明いただき、今中高生で将来戻ってきたい若者が、数字としては私が考えるよりずっと低くて、ショックを受けて

います。普段子どもや若者と関わっている時間が多いので、そういったところから見ても私が感じるより低い数字だなと感じました。他の委員からも若者の雇用というのがあったのですが、私としても取り上げていただきたいと思ひますし、こういったデータは分析しながら考えていかなければと思うのですけれども、私に関わる若者の就労支援については今年5年目になるのですが、今まで米沢の若者を受け入れてきて、現在登録している方が500名ほどいます。ニート、引きこもりと呼ばれる若者ですが、500人の内300人は就労が決まっていますが200名が未だ決まっています。就労が決まった300名にしても正規雇用ではなく、非正規です。中には結婚した若者も数人いますが300名のほとんどがまだ結婚まで踏み出せていないという状況です。持続可能な若者の雇用を進めるためには、企業を後押しするような政策も必要だと思ひます。また、読み・書き・計算というところだけではなく、いかに自分の地域を守っていけるかだと思ひます。先日も政治・経済なんて話もありましたが、日本全体というよりは地域のことを理解し、課題を知ることは大切だと思ひますので、地域を守っていく、住み続けるというような、小中学校から米沢の良さを教える学校教育も求められているのだと思ひます。私が知るところで、市長選挙をする際に、市長候補が子どもたちに自分の政策をそれぞれ発表して、子どもたちは名前ではなく政策やこの人がリーダーになったらどうなっていくのだろうと仮に投票したりとかしているところがあります。そういった小さい時から自分の地域のリーダーまたは地域がどういう方向に進んでいるのかを考えられるような機会を与えることが大切だし、学校がもう少し開かれていて、地域の方が一緒に若者たちを育てていけるシステムというのが大切だと思ひます。また、ここ10年くらいで小中学校では特別支援教育という形で発達障がいなどに対応していますが、それが高校または雇用までつながっていない現状があつて、また、これまで個性としてみていたところも発達の課題となり、つまりが幼少期からみられる子供も多いことから、何か長期的・包括的に子どもや若者を育てていけるようなセンター機能を持ったところは必要だと思ひます。また、雇用の問題でも、いろいろな事業者と関わるうえで後継者がいないという話もよく聞くので、後継者の育成をして雇用を守っていく取り組みも必要だと思ひます。

会 長 ありがとうございます。確かに後継者不足は先日ニュースになってまいりましたが、大変な時代になってきていますね。では次の委員お願いします。

委 員 教育に関しては、先ほどの委員が話しましたが、付け足せば、やはり前回も申し上げましたが、米沢の発展に尽くすような人を育てることを小中学校からの教育目標の一つとして掲げておいた方がいいのではないかとというのが一つあります。あと、私は米沢で教員になったので、他の地域での生活はあまりないのですが、地元の良さを分からせるために、外国に子供たちを勉強に行かせるということを高畠町がやっているようですので、米沢もそういう取り組みがあつたらより視野の広い子どもたちが育つのではないかと思っているところです。国内でも一度米沢から出てもらってまた戻ってくることも大変いいことなのですが、先ほどの意見の続きとして言えば、米沢から大学の勉強などで出て行ってもいずれは絶対米

沢に戻って米沢のために頑張るのだという熱い心を持った人を育てていけばいいのかなと思っています。あと、他の委員の御意見の中に、定着した人が魅力を感じるまちづくりというのがありますが、この「魅力」というのが私の好きな言葉で、今住んでいる人が、米沢はいいところだと魅力を感じるようなところに米沢をしていかなければならないなと思っているところです。

会 長 ありがとうございます。では次の委員お願いします。

委 員 今まで皆さんの御意見を勉強になるなと思い聞かせていただきました。米沢は歴史的な建物や景観も素晴らし所がありますし、自然も豊かですし、やはり色々な方々と関わると、米沢を好きな人が多いので、小さい頃から自分の出来ることやまちづくりの担い手になることを教育することも必要なのかなと思います。また、米沢を見つめなおす場も必要だと思います。また、私どもの講座で障がいのある方と関わることがあって話をお聞きしますと、障がいのある人は街に出ようと積極的に行っていますが、出ていくと「何かお手伝いしますか」や「何か困っていますか」と女性は声をかけてくれるそうなのです。しかし男性は遠めに見て、何か手伝った方がいいのかなと思うだけで結局声を出さないというような現状があるようです。子どももそうですが、地域との関わりや学びの場、研修の場が必要なのかなと思ったところです。

会 長 ありがとうございます。すべての市民の生活の質の向上の「すべて」が大事なところですね。では次の委員お願いします。

委 員 今日はこの検討1の「まちづくりの目的」をしっかりと考えなければいけないと思うので確認をしたいのですが、前回の会議でも出たように、資料でもありますが、現状は人口が減り、高齢者が増え、子どもが減っていくわけなのですが、その現状維持なのか、将来人口を増やしていく方向に持っていくためのことを考えていくのか、縮小した段階のことを考えるのか、前回そういう話が出たと思うのですが、その意識をみんな共通してもたないと話が進まないと思うので、私は前向きに増やす方向で考える施策を作りたいなと思います。高校を中心にして外部からのコーディネーターを呼び、地元の資源を高校教育に取り入れて教えていくことによって子ども達も定住し、外国や他の土地からも人が入ってきて、実際に人口を増やした例が全国には何箇所かあるという新聞記事を見まして、米沢でも不可能なことではないと思いました。米沢も選ばれる田舎になるという意識をもっていきたいと思っております。事務局案がありますけれども、どうしても言葉が固いというか、当たり障りないと思うのです。将来のために、ひいては未来の子どもたちのためにどうしていくのが目的かということだと思いますので、一番初めの人口定住に結びつく皆が住み続けるための仕事がある、もしくは仕事を作れることが目的ではないかと思います。次の「質の向上」というところでは、大事な自然というのが米沢の誇れる資源でありますから、自然を守ってエネルギーや農業や色々な面があると思うのですが、食の面で自給率を高めていく、自分たちの力で仕事を作り自給していけるところを目指すのであって欲しいと思います。「文化の継承」については、鷹山公はテレビなどで何回も取り上げられて非常に有名になっていますし、観光客数でも県内2番目に松岬神社に人が訪れている

ということなので、やはり観光資源があるということは米沢の強みだと思います。鷹山公の教えや歴史を学びながら、皆ですばらしい米沢を世界から選ばれるような都市にしていくというのを目標に掲げられたらと思います。アンケートを見ると米沢の良いところ・悪いところが出尽くしていますので、そこを探っていけばいいと思うのですが、私が思う良いところは、今言った観光もそうですし、福祉の面でも、実際に老人介護をここ一年実際に使ってみて、非常に手厚く米沢市がしてくれています。やはり実際体験して良さをアピールしていく。そうすると、みんな米沢に入ってきてくれるかもしれない。子育て中の奥さんの知り合いがたくさんいますけれども、今は預かってくれる一時保育の施設も出来ているようで、そこへ何時間か預けて好きなことをする、そういうことをして活発に動いているお母さんたちもいます。こういったことも私たちが若いころにはなかったことなので、少しずつ改善されているのかなと思います。良い面もたくさんありますので、どんどん伸ばしていってほしいと思います。

会 長 事務局案は3項目挙げていますが、追加しなければいけないことはありますか。
委 員 全て含まれていると思いますので、足したほうがいいのかどうか。もう少し具体的なことを入れた方がいいのかと思います。

会 長 ありがとうございます。次の委員をお願いします。

委 員 商業者の立場でこのアンケート見させていただきましたが、まず中高生は、商店街やレジャー施設が整備された賑わいと活気のあるまちというものをかなり希望されていますが、これをよくよく聞いてみると、イオンモールが欲しいとか、幼児・小学生に聞くとディズニーランドが欲しいとか、そのようなことを言う人が多いです。そうすると米沢でなくてもいいわけで、先ほど他の委員がおっしゃいましたが、プチ東京、プチ銀座が米沢にあったらいいなと言われているような感じにならないように地元の商店街、地元のレジャーというものがしっかり育て、外から来たものに負けずに活動できるようにと考えるなければならないのかなと思います。大きなショッピングセンターの中のお店は、今定休日がありません。そうすると、どうなるかと言いますと、働いている人が休めなくなります。企業所得は上がっているのだが、一人当たりの雇用者報酬が下がっているのは、労働者派遣法の絡みもあるわけですよ。となると、単純労働の派遣を米沢市は禁止しますとか、夢物語じゃないですけどそういう目的や目標があっても分かりやすくいいのかなと思ったりします。あとは、皆様方の御意見を参考にさせていただいています。ありがとうございます。

会 長 若者対策というか高校生対策ですが、例えば高校が分散していますよね。これをもっと中心街に持ってくるというゾーン計画もあるでしょうけれども、昔は集まっていたわけですよ。街なかに工業高校や興譲館があって、東高は同じ場所ですけども、ああいったものがなんでバラバラになってしまったのかといつも思っています。やはり高校生が街なかで闊歩しているのが何となく賑やかでいいですね。そういう高校の移設までも含めた計画にしていかなければならないと思っております。それでは次の委員をお願いします

委 員 検討1は、事務局案に一つ視点として入れていただきたいのが、先ほど来話が

あるように、今後の10年25年を見据えた時の一番の問題は、人口減少や少子化があるわけですが、米沢がしっかりと経済基盤を持って、かつ特性を活かしながら継承して、創造していくと、あるいは質、質というのはクオリティオブライフということですが、これは一人一人違うわけで、すべての質を上げるのはイメージがつかないのですが、生活満足度を向上させるという意味だと思うのですが、それをやはりやっていくためには、ここに住んでいる我々も含めた、それから次世代の子どもたち、そういった人間力をとにかく向上させて今よりもすべてのスキルにおいて向上させていかなければ、10年後20年後、私たちの豊かな社会は維持できないだろうと思います。そういう意味では教育と、質的な向上、人間力を高めていく、そのために人財育成というのがあるのだろうなと思います。その視点をぜひ入れていただきたい。検討2の10年後に向けた将来像というのは、第1回目から私が貫き通して話していこうと思っていることなのですが、若者が結婚し子育てをしていくうえで、希望を持てるまちにしていきたいということ。それからやはり若者だけではなく高齢者、障がい者、様々な方、全ての市民が住んで良かった、あるいは是非住みたいというまちになってほしいなと思います。それから、最後に、先ほど来、経済的な所得の問題が出たように、やはり満足度を高める、生活の質を高める、これは何も経済的な面だけではなく色々な面があるわけですが、そこに基盤としているのは経済的な基盤、それから、それを基にした生活満足度が高いまちになってもらいたいというのが、将来の都市像です。そこで具体的な案はこれから話が出ると思うのですが、先ほど他の委員からあったように派遣の話が出ましたが、非正規の所得格差の話が出ましたが、私こういう視点を入れていただきたいなと思います。米沢にはたくさん人材派遣会社があって、ほとんどが全国展開をされていて、米沢には支店営業所があります。リーマンショックの後は派遣の支店、営業所は米沢からいなくなって一時は2、3軒しかなくなったのですが、アベノミクスがあって経済成長し始めてからまた増えてきました。皆さん派遣広告を見ると思います。所得を上げていくためには、非正規と派遣の問題は避けて通れないのですが、大手の人材派遣会社のマージン、これは派遣法が改正されて、マージン率を公表しなければならなくなったのですが、低くて3割、高いと4割以上のマージンを取るのです。企業が大手の人材派遣を使って派遣をしてもらおうと、単純工で企業からは1,450～1,650円くらい取るのです。それで、本人たちに支払われる賃金は850～900円です。深夜の3交代などをすればもう少し上がりますが、大体1,500円をとって、本人には850～900円しか行かない。マージンは全て人材派遣会社に吸い取られて米沢から東京なりどこかに全部移転していくわけです。そういうことを考えると、これから議論が出てくると思うのですが、まちづくり会社という案が米沢にありますよね。まちづくり会社は、商店街の振興やイノベーションなどを行うための会社なのですが、是非米沢は、公的な支援をいただきながら、第3セクターがいいかは別として「ひとづくり会社」をつくっていただき、そこで優秀な人材を育成して、常用派遣をしていく。教育をしながら派遣をして、良ければ正社員にしてもらう。我々地域の経済界なり市

民すべてがそういった若者たちの雇用環境なり、働く環境や所得を皆で上げていくのだというものを何か形として是非取り組んでいただきたいと思います。それが結局所得の向上につながり、正規化につながって少子化対策、婚姻率の向上に行くのではないかなと思います。もう一つは、その中で、中高生アンケートを見て思ったのが、義務教育それから高校教育です。教育は非常に大事だし、米沢は教育の力によって子どもたちが成長し、我々大人も成長させていただいています。都会に出て行って、必要な場合は戻ってきて、米沢のためになるという、そういう方々たくさんいて、それは米沢の教育の力だと思います。ただ、経済的な環境が変わって、所得格差によって教育格差もあるのだろうと、それを防ぐためには義務教育でかかる教育費は決まっていますのですが、米沢でも義務教育に係る以外の義務教育外教育費、塾や習い事といったものです。これもほとんどが米沢外の資本です。10年後将来の姿にしていきたいと思いますのですが、子どもたちを教育していく、中高でより高いレベルの教育をしていくうえで、お金がかからないような形で、先生OBや地域の支援を受けながら子どもたちを、教育していく。そういう組織なり実践をやっていただければと思います。米沢に行けば無駄な教育費をかけないでしっかりと勉強できて、確かな学力が見につくことになります。人によって違いますが、塾に行きますと、年間50～60万かかるわけです。その所得が米沢外の資本へ移転していくわけです。山大学生のアルバイトに入るかもしれないが、ほとんどが吸い上げられていくわけです。そういった意味で、地域の中で完結型の経済というものを作っていきけるような仕組みづくりができれば、人財育成にもつながると思いますので、今後検討していきたいと思っています。

会 長 ありがとうございます。次の委員をお願いします。

委 員 皆さんの御意見がほとんど出尽くしている状況ですので、プラスしてというか、私が考える部分だけをお話ししたいと思います。事務局案にほぼ同意するところですが、人口定住に結び付く持続可能な経済活動というところで、経済活動で一括りにしてしまうと、農林業はどうなっているのだろうと頭に浮かびました。米沢は林業・農業を含めた経済活動を広めていかないと豊かな自然を使ったと言えないと思うので、あわせて意見交換をした方がいいと思いますし、この活動の実現をする中に、中心は人であるのかどうかというのが、具体的な例が出てこないで実際に中心は米沢市民、人が中心にいるのかなというのが目に見えないのが、私的に疑問に思っているところです。それで、先ほどから雇用の拡大が出ていますが、10年後の将来像ですので、10年後というところは1万人の人口が減るといのが目に見えています。だとすれば10年後の人口を見据えたうえで施策をしていった方が、人口を増やす方だという御意見もありましたが、私はコンパクトな施策を担って行って、10年後また見直す先の10～20年後に人口が増えていけば、当然いい方に回っていくことなので、まずどの「木」を植えるかをしっかり決めっていった方がいいと思います。長期的、包括的という意見が出ていますけれども、プラスやはり思い切った施策がないと前が見えてこないのではないかと思います。鷹山公が当時9万人の人口が6万人になったときに、次男坊三男坊には年貢を付加しなかった施策があったようですけれども、例えば

それを若い世代にできるかどうかだと思います。市県民税を免除するような、3年間で子どもができるまで免除するような策があるかどうか分かりませんが、そういった思い切った施策が必要なのではないかと思います。キーワードとしては、今見落とされている資源があると思うので、経済的な資源を含めて掘り起こしをした方がいいのではないかなと思います。コンパクトな都市としての資源を使う方というのがあると思うので、今公共的なものが合併していますよね。合併しているということは、市の経済も同じような動きをしていかないとダメだと思います。活動も、近隣の市町と共同で討論をしていく必要があると、高畠町、川西町だけでなく福島県との関連も視野に入れて近隣市町との協力体制の計活動も必要だと思います。今年収100~200万の人が多いのです。市役所の方は感じないかもしれませんが、多いです。その人たちを格上げするのに、企業努力だけではできないのです。みなさん、自分に報酬もらっていないで社員に給料あげればいいと言いますが、企業努力だけでは何ともならないところがあります。こうしたらいいとは言えませんが、それを含めたうえで10年後の経済活動を見ないと何ともならないと思うので、まず雇用をするのに今までの誘致計画では誘致できないと思います。米沢は雪が多くて道も悪いのだから、本当に企業は来ないと思います。極端な話、土地は無料で貸す、税金はいらないので10年はここで起業してください、そのかわりに何百人の雇用をお願いしますというような思い切った政策ができればなと考えています。

会 長 ありがとうございます。住民税を免除するのもいいですね。

委 員 米沢は税金がすごく高いのです。私の父は県外から転居してきましたが、90歳の高齢が3割高くなりました。

会 長 ありがとうございます。次の委員をお願いします。

委 員 皆さんの意見をまとめれば事務局案になるのではないかと思いますし、まとめるを得ないと思うのですが、目的として出すのはいいのですが、実際に実行できるかということがこれから大事なところでして、米沢市としてまちづくり総合計画を平成18年からやって、その報告書を我々見せられて色々学んだところですけれども、その中で今回のと、そんなに大きく違っていないと、市として非常に頑張ってきて今日があるのだと思わされたところです。目的を出すのはいいのですが、大事なのは、今まで出ていますように、米沢らしく米沢だから出せるものに絞り込むのが大事ではないでしょうか。というのも今国を上げて、政府は創世関連の部署を作り、地方に関して色々なことを始めるところだと思うのですけれども、そういう情報は、米沢は日本の中のどういうレベルでどういう問題があるか抑えなければならぬと思いますので、以前から言っているとおりやっぱり情報収集は大事です。そして、最初のころにありましたように、アンケートをとっても他所の似たようなまちとの違いという観点でまとめ上げるのも必要ではないかと思っています。これからの取り組みの中から見えてくるものや情報収集は非常に力を入れてやっていただければなと思うところです。私自身としてはこの目標の中に人が集まるのは仕事があればこそ、不自由を忍んでもそこで生活していこうとするのが人間ですから、仕事をいかに増やしてやるかが一番大事だと思

います。それは若者だけではなく、中高年にとっても仕事があればこそというところでの人の移動があると思います。そういう取り組みプラスここに住んだら米沢の良さを非常に感じるような雰囲気、環境を作っていくというのに望みを持っております。ですが、10年後こういう目的は出したけれども、どうだったのだろうというところをきちっと抑えないと、どうしても言うことは非常にいいことを言えますが、現実にはお金の問題とか、人材の問題とかきちっとやらない限り、いくら打ち上げてもなんだったのだろうとならないようにしなければと思いつつ、最近色々な情報を勉強しております。

会 長 ありがとうございます。結局、具体的な施策をどうするかは次回の資料2枚目のところで議論いただくとお思いますので、各委員いろんな情報を集めていただければと思います。よろしく願いいたします。それでは次の委員お願いします。

委 員 検討の1のまちづくりの目的というところ、事務局案3つありましたが、言葉でいうとこれで全部包括しているというのが正直なところですね。もともとのお題がこの3つからスタートしているということもありますので、正直言って堂々巡りで言葉の表現だけの問題になってしまうのかなという気がしています。皆様の意見をお聴きすると勉強になりまして、長期の目的を受けて10年後に向けた都市像というところだと思うのですが、他の委員の方が雇用の問題や雇用について思い切った施策について言われておりましたけれども、やはり安定した雇用というものがまず10年後に向けて、少なくとも米沢市だけはこのところでもいいので、非常に強く進める必要があるのかなと、皆様のお話を聞いて思いました。やはり正規雇用を中心とした安定した雇用環境があつてこそ経済活動の基盤がなされていくし、人口定住に結び付いていくのではないかなと思いました。それが世帯収入を上げていくということにつながっていくのだろうと思いました。2つ目は先ほどもお話しができました、人を育てるまちなのということですね。これは学園都市としての米沢市ということで、そこに子どもを置いておくと人は育っていくよと、さきほど塾や義務教育以外の教育の問題などありましたけれども、教育、あとは実際に働きながらの人材育成というもの、これが将来都市像として必要なキーワードではないかなと思いました。先ほどインバウンドはないという話がありまして、私も観光業界でやっていますが、米沢を世界各国に大量のお客様に来ていただけるようなビジネスになるかというとなかなかお金も人も時間もかかる非常に難しい問題だと思っています。競争になると思っていますので、グローバルなビジネスという考え方では、いわゆる米沢のオリジナルの技術、例えば一次産業の生産物は、海外ビジネスの幅としてはそんなに広がってないと思うのです。これは山形県でも観光の方で、ワインとか日本酒とかを外国に一生懸命売るといった話があります。こういうチャンスで、例えば、米沢のうこぎがパクチーに似ていて、売れるかもしれないわけです。架空の話ですので実際は分かりませんが、そういった生産物をグローバルに外に向けて販売していくという意味で、外国からのお金を入れていくということは米沢の特殊解として一つあつてもいいのではないかなと思いました。以上3点考えてみました。

会 長 ありがとうございます。では次の委員の方をお願いします。

委員 10年後ということで焦点を絞った時には、今よりも住みやすい状態にして、すべての市民の生活の向上と人口の減少を止めるという部分の着目点が大事かと思えます。米沢市内にある保育園、児童センターは合わせて21施設と先ほどお話がありましたように支援センターは市内に6施設あります。病児保育といったことで看板を挙げている施設は2つしかないのですけれども、それでもどこの保育園でも多少子どもの熱が出ても具合が悪くなっても、お母さんが仕事の段取りがついてお迎えにきていただけるまで保育園ではきちんとお子さんを見ています。そういった意味では山形県内を見ても米沢の保育体制というのはすごくしっかりしているなど思っているところです。このように子育て世代の若いお父さんお母さんに安心してお仕事をしていただける環境がきちんと作れている状態ですので、次は雇用の安定と各世帯における所得の水準の引き上げをどうしていくかと考えた時に、産業や商業の部分になるかと思えますが、米沢に特化した部分で考えられるのが、事務局案の方からも出ました温故知新という部分だと思います。米沢の歴史、鷹山の教えの深さ、米沢で育ってきた市民は鷹山のことを必ず見聞きしているわけですし、小学校の体育館には必ず肖像画も飾っているわけですので知らないで育つ人はいないと思います。そういった部分で古き良いものを定めて歴史ある文化のまちなのだというところにおける自尊感情だと思います。また、新しいものという部分では有機ELだと思います。専門ではないので分からない部分もありますが、有機ELは日常のものに商品化が難しく、照明器具やインテリアに特化してしまっていて販路がきちんとされていない、ものすごく高額で特殊なものになっているということで広がっていないように感じます。いいものなのに広がらないというのは、生活用品の中に反映されてきていない部分があるのかなと思っています。先ほどの御意見にもありましたように米沢で認証して行って、米沢を起点にそれを商品化していき世界を相手に売り込んでいくような構図を狙えたらいいのではないかなと思っています。古い部分の歴史と新しい部分が両方米沢にはあるのだと考えた時に、米沢市民としては誇りとして持てるのではないかなと思っています。自分のまちに誇りを持てた時に、やはり戻ってきたいと思うだろうし、18歳の決断までに子供たちに米沢のいいところが古だけでなく山大工学部を中心に新しいこともあるという部分で、米沢の良さを戦力にしていくというときに、活力のある産業の振興という部分にも賛成しました。

会長 ありがとうございます。城戸先生がスマートハウスとして有機ELを実際に家の中に張り付けて生活する空間を準備しているみたいですので、少しずつ広めていきたいなと大学としても考えております。では次の委員をお願いします。

委員 各委員がおっしゃられた内容は、全てそのとおりだと思いながら聞いていました。いただいた命題として、50年後を見据えたまちづくりの目的というものの事務局案を見た時に、異口同音に皆さんが言っていることだと思うのは、出された意見の最大公約数、つまり全てを入れるとこういう回答になると思いますが、全て入れた分だけインパクトが感じられないとおっしゃっているのかなと思います。個人的には、方向としては間違っていないと思いますが、やはり言霊の国ですので、ある方向性が、多少誤差があっても受け入れられる、言葉や勢いを持って目的を

提示するということが大事だと思います。先ほど他の委員がおっしゃったような、選ばれる地域を創るとか、減少社会において敢えて人口が増えるまちを創るとか、そのくらい踏み込んでもいいのではないかと思います。その選択をするかどうかは別の話としてですが。そのくらいの言葉を、どこのまちの言っていない言葉を使ってすべての人が分かるように目的を示すことも必要だと思います。3つのなかで欠けているなど思ったのは、一つはグローバルだと思います。入っていないわけではないかもしれませんが、世界の中の米沢を意識しないでは今後生きていけない時代になるのではないかなと思いますので、もっと明確に言ってもいいのではと思います。日本だけ見ると人口減少社会ですが、世界的に見ると人口爆発的増大世代になるのです。それをどのように考えるのかということです。もう一つは、日本と同じように人口減少社会や経済が疲弊し始めた時に、他の先進国は何をしていたかなと考えていましたが、20代30代の世代が安心して子育てできる社会創りはその通りですが、他の国が何をしたかということ、雇用ではないのです。若いことから今までなかったビジネスを創りなさいという環境整備をした国がいくつかあるのです。最近だと1999年に韓国経済が破たんした時に、国が何もできなかったのも、若者はベンチャーをして自分で生きてくださいとなりました。その政策を真似ようとは思いませんが、結果としてある特定の分野に極めて競争力のある若者が増えてきました。それがこの3つの目的の中にはないかなと思いました。もう少し言葉を変えると、産業だけではなく、全てにおいて住民参加、いずれ市の政策に転写しなければならないと考えると、どうしても控えめな言い方になってしまいますが、全ての人々がどう参加して自分たちの未来を切り開くのかという視点が今後必要になっていくと思います。ですので、ベンチャービジネスや住民参加がキーワードになると思います。そこが抜けているような気がしました。3つ目は、米沢の特殊解で、かつ避けて通れない「雪」をどうするかだと思います。制約条件でもあり、資源でもあるかもしれません。例えば、サンモリッツは雪とどう付き合っ国際都市になっているかと比較すると、米沢の雪との付き合い方は今後どうするかを視野に入れるべきだと思います。検討1について話しましたが、検討2については、市は意識して作っているとは思いますが、検討1が目的に対して、今後の10年は今後の30年を決定づける戦略だと思います。先ほどのマクロトレンドを見ますと、50年後の姿を決める最初の大きな方向性であるので、この10年の方向性が間違えば50年後の姿はなくなると思います。50年を意識して10年後に向け何を選択するかということだと思います。「稼ぐ・住む・楽しく健やかに過ごす」をキーワードで出してみます。皆さんとの議論でつながっていけばと思います

会 長 ありがとうございました。具体的に、最後の3つの柱をキーワードとして提案していただきました。続いてお願いします。

委 員 委員の資料の中に、付加価値を創出するという主要指数動向予測は、かなり良い方向に振れた場合の予測だと思うのですが、実は10年後のキーワードは何かと言いますと、例えば、1,000人以上の雇用を生み出すためには最低数千万の売り上げの企業をつくらなければならない、そのためには最低7年かかります。

職業柄色々な事業を造ったり壊したりしていますが、そのくらいの期間が必要です。10年を予測するという事はもうスタートしないと間に合わないということなのです。この瞬間に何かをスタートさせておかないと、間に合わないという現実があります。例えば、有機ELや半導体など、一つの研究を世の中に出すのに最低3年、場合によっては5年かかります。この研究をビジネスに結び付けるのに2年から3年かかります。ですから、米沢市で数千人規模の雇用を生み出すためには、それだけのイノベーションを起こさないと無理だということです。参考になるかですが、NEC米沢は、米沢でパソコンの開発全てを行っています。派遣職員を含め350人くらいいて、7割は市の出身者です。その人間が日本トップの技術力を持ち、世界に通用しているのです。1983年頃、NEC米沢ができて、その頃は技術力もあまりなかったのですが、群馬・静岡・新潟など色々なところに工場があったにもかかわらず、なぜ米沢が生き残ったのかというと、米沢には地域独特のハングリー精神があって、地元採用の15人からスタートした技術者が30年間で世界に通用する技術力を身に付け実現させたということです。事例になるかどうかですが、米沢は雪もあり閉鎖的ではありますが、フィンランドはもっと雪が降り人口も少ない都市です。そこからノキアは出てきました。なぜノキアが出てきたかと言いますと、あまりにも閉鎖的なので情報量に乏しく、そのために人をどんどん受け入れる文化があり、情報交換をすることで世界に発信できるようなものが生まれてきたということです。雪の中で生きていくという精神が地元の有者を育て、今30代から40代の若者には世界に相手取って開発をしているわけです。なぜすごいかというと、パソコンでも世界でも新しいイノベーションをかけるべく、スタンフォード大学と連携して研究開発を進めています。その研究者は、米沢の高校や山形大学を卒業した米沢出身者で第一戦に立ってやっているわけです。まさに地域が育て上げた人材であり、優秀な人材が目の前にいるのです。こういった経験を活用できないかと考えています。もう一つ考えていることがあります。世界から人を集めてくるモデルが日本にも結構ありますが、まさにそのとおりであり、人を集めてこなければならぬのです。また、山大工学部の学生を地元固定する必要もあります。工学部は院生を含めると毎年1,000人の卒業生がいますが、その内98%が離れていくのです。例えば20%を地元固定できれば10年後はとんでもないことが起こります。それを具体的にどうしていくかを決めるべきだと思います。そこでベンチャーが生まれてくると、日本でも注目される地域になると思います。そうすると、様々な有識者が集まってきて、世界に発信できるようになる。現実にはできると思います。皆さんにやる気があるかどうかなんです。これは、私が30年経験してきたことをお話しました。言うだけじゃなければいつでもお話しいたします。

会長 ありがとうございます。最後の委員お願いいたします。

委員 私は農業をしておりますので、農業の観点からお話ししますと、基本となるのは食だと思います。和食は今話題になっていますし、国際力を高める意味でも食は重要なキーワードになると思います。その中で、米沢として何ができるかと考えると、ネームバリューでは米沢牛の知名度があり素晴らしいものだと思います。

が、それに続くものがないと思うのです。県ではサクランボなどが挙げられますが、米沢市のネーミングでの農産物の力が足りないと思います。そのためにはまず、PRして知っていただくのが必要だと思うのです。食に「米沢」の名前を付けて付加価値をつけるような方向に持っていけるとシェアが広がり、世界と戦える資源ができると考えています。そうすると農家はやりがいを感じるようになりますし、今までは国の施策に振り回されている部分が大きく、若手農家はやりがいを感じないという意見が多いです。何となく野菜や米を作っている農家が多く、米沢だからという農産物を作れたらいいねと様々な会議で議題として挙がっています。歴史のある米沢市なので、それに付随した農産物ができれば発展するのかなと希望しています。雪に関しても寒中野菜が出始めてはいますが、まだ道半ばですので、雪が降ると農産物は作れないというのが現状なので、その問題は非常に重要です。雪を使って何かおもしろいことができたならと模索していきたいです。国際力のある製品を作っていけたらなというのが一番思うところです。米沢市は「おもてなし」の精神が必要だと思います。

会 長 ありがとうございます。昔の話ですが、小国のあたりに火力発電所一基持ってきて炭酸ガスレーザーを並べて雪雲に照射すると2～3度温度が上がると計算した先生がいらっしゃって、そうするとその結果米沢上空は冬でも雨で通過し、天元台で雪が降ることとなり、結果水不足や天元台の5倍の積雪量が確保できるといった推測がされ、実際東北電力も来て議論したと聞いたことがあります。雪をコントロールするという意味では、そういったやり方もあるのかなと思っています。今日はみなさんありがとうございます。特殊解を求めなきゃいけないという話と、どこにもないキャッチフレーズや、地方創世では提案型でしょうか。ばらまきではなく、我々議論していることをまとめて申請すると、お金がつくかもしれません。

委 員 未定ですが、12月に増田寛也さんをお呼びすることになりましたので、新しい情報が聞けると思います。皆様に御案内いたします。

会 長 今までの御意見は事務局でまとめて解を作成いたします。それでは(3)になりますが、その他について、まずは委員からありますか。

委 員 9月30日に地域活性学会で市街地活性化セミナーを開催しますのでよろしければいらしてください。

会 長 では事務局からお願いします。

事務局 次回会議の日程を御確認いたします。今回は既に御案内させていただいておりますが、10月27日(月)午後1時30分からアクティール米沢2階大会議室で開催する予定ですので、日程の確認をよろしく願いいたします。もう一つ、御報告になります。審議項目の仕様にも入っておりますが、市民からまちづくりに対する意見を出してもらおう場として米沢まちづくりフォーラムを開催したところです。第1回は8月29日に開催をし、参考資料としてお出しした魅力や将来像等について御意見を頂戴したところです。今後、この意見を基に米沢市の重点施策や提言等について市民フォーラムとして取りまとめ11月頃には審議会にお出ししたいと考えております。よろしく願いいたします。

会 長 ありがとうございます。以上で審議を終了します。長時間に渡りありがとうございます。

事務局 大変ありがとうございました。本日お忙しい中御出席賜りありがとうございました。これもちまして第3回総合計画審議会を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。

(4) 閉会

以上